

各教科等における「令和8年度の重点」 《中学校》

質の高い学びを実現する授業改善に向けて

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として、「生きて働く『知識及び技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養」が示されています。これらの資質・能力を育成するため、徳島県教育委員会では、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら問題を見いだして解決策を考えたりするなど、学校教育における質の高い学びの実現を目指します。

さらに、多様で複雑な現代社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、必要な情報を取捨選択し、選択した情報を解釈したり活用したりする力などが求められます。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等において、その育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①実践的・体験的な活動の充実

◇実践的・体験的な活動を中心とし、生徒が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。

②問題解決的な学習の充実

◇生徒一人一人が、生活や社会の中から自ら問題を見いだして適切な課題を設定し、学習した知識及び技能を活用して、主体的・意欲的に課題解決に取り組み、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行う。

◇生徒が、自ら設定した課題の解決に向けて、課題の解決方法の検討や解決に向けた実践活動において、他者と協働しながら解決の見通しをもって粘り強く取り組むことができる学習過程を計画的に組み立てる。

③ICTの効果的な活用

◇生徒の思考の過程や結果をデータ化し、振り返り及び相互に評価したり、考えを瞬時に共有したりする。情報を収集・整理し編集することを繰り返し行い試行錯誤するなどの学習場面において、ICTを積極的に活用する。